

学協会の今

——社会と向き合う 18

バックナンバー

- 第1回日本生態学会
- 第2回日本分子生物学会
- 第3回日本心理学会
- 第4回日本物理学会
- 第5回日本農芸化学会
- 第6回日本歴史学協会
- 第7回国際法学会
- 第8回日本地球惑星科学連合
- 第9回日本文化人類学会
- 第10回日本化学会
- 第11回日本土壌肥料学会
- 第12回日本薬学会
- 第13回日本統計学会
- 第14回日本口腔科学会
- 第15回横幹連合
- 第16回日本国際政治学会
- 第17回日本家政学会
- 第18回日本アルコール・アディクション医学会

現在、学協会が社会と向き合っどのような活動を展開しているか、あるいは、組織・運営の問題も含めてどのような懸案や課題を抱えているか。各学術分野の学協会に順次寄稿していただき、学協会問題に関する議論と情報共有の場になるよう、企画しました。今回は、一般社団法人日本アルコール・アディクション医学会の取り組みを紹介します。

なお、紙幅の関係上、寄稿された学協会には、現在、取り組んでいる課題、懸案等に絞ってご執筆いただきました。学会の「概要」(設立趣旨、沿革、会員数、刊行物等)については、『学会名鑑』Web版[※]をご覧ください。

※日本学術会議、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)及び公益財団法人日本学術協力財団が連携・運用する学協会データベース。URL: <https://gakkai.jst.go.jp/gakkai/>

社会と共に歩む アルコール・アディクション 医学会

一般社団法人日本アルコール・アディクション医学会(JMSAAS)とは

我々ヒトは誕生とともに母への依存から始まり、種々の依存の誘惑の中で、それらを克服して個人として独立・成長していく。その誘惑は、飲酒や喫煙から危険ドラッグ・大麻・覚せい剤を始めとする薬物摂取や、買い物・ギャンブル・インターネットへのアディクションなど様々である。これらの誘惑の虜となり心身や社会に深刻な問題となることも多い。このような社会の変化に応じたアディクション問題を克服するためには、その問題および原因を科学的に分析する必要があり、種々の学際的な研究領域の協力が必須となる。

一般社団法人日本アルコール・アディクシ

PROFILE

池田和隆 (いけだ かずたか)

- 日本アルコール・アディクション医学会広報委員長
- 日本学術会議連携会員(アディクション分科会委員長)
- (公財)東京都医学総合研究所参事研究員

専門 神経精神薬理学



藤宮龍也 (ふじみや たつや)

- 日本アルコール・アディクション医学会理事長
- 山口大学大学院医学系研究科法医学講座教授

専門 法医学



ン医学会(英語名: Japanese Medical Society of Alcohol and Addiction Studies、略称: JMSAAS)は、わが国におけるアルコール依存を始めとする種々のアディクションや関連身体障害の医療・研究に貢献することを目的として、精神科・内科・薬理学・法医学・衛生学・公衆衛生学・看護学・心理学・社会学・脳科学等の研究者や臨床現場の多くの医療職種等の研究者で構成されている学際的な学術団体である。

JMSAASの源は三つあり、1965年に設立された日本アルコール医学会（1996年に日本アルコール・薬物医学会へ名称変更）、1989年に設立された日本アルコール精神医学会、1998年に設立されたニコチン・薬物依存フォーラムである。2012年に日本アルコール精神医学会とニコチン・薬物依存フォーラムが合併して日本依存神経精神科学会が発足し、2016年に日本アルコール・薬物医学会と日本依存神経精神科学会が合併して日本アルコール・アディクション医学会が発足し、2018年に法人化した。社会ニーズと会員ニーズに応じて学会統合が二度なされていることは、JMSAASが社会と共に歩んでいる証とも言える。会員数は約1,000名で、毎年学術総会を開催しており、学術総会に合わせて市民公開講座が開かれることも多い。また、2016年度診療報酬改定で新たに算定が認められた「依存症集団療法」のための「研修」を年1回肥前精神医療センターで実施している。機関誌は年6回発行の『日本アルコール・薬物医学会雑誌』と年2回発行の『JMSAAS News Letter』である。JMSAASは国際学会のInternational Society for Biomedical Research on Alcoholism (ISBRA) に加盟しており、JMSAAS会員はISBRA会員でもあり、ISBRA理事長も輩出している。また、日本脳科学関連学会連合（31学会が加盟し、延べ会員数約11万人の脳研究者コミュニティ）の加盟学会でもある。日本学術会議アディクション分科会および文部科学省科学技術・学術政策研究所とも連携し、提言作成でも役割を果たしている。

JMSAASの活動

JMSAASは日本アルコール関連問題学会と共に2013年に成立したアルコール健康障害対策

基本法の制定準備を担い、基本法成立後の計画推進にも関わっている。肝障害を始めとしたアルコールの臓器障害では、臓器障害者の中にアルコール依存症を合併している患者が多いため、その治療が困難となり、臓器障害を進展・重症化させている。一方、職場などにおけるストレスの増加から生じるうつ病やストレス関連障害の陰にはアルコール関連の問題が潜んでいることが多く、問題をより複雑・深刻にしている。女性の益々の社会進出と働き方改革においては、その陰として女性における飲酒問題が深刻化している。交通関連ではゼロ・トレランスが叫ばれ、飲酒運転規制がより厳格なものになってきた。以上の種々の問題・動向を受けて上記基本法が制定され、対策推進基本計画の策定などが行われており、今後もJMSAASや関連団体と社会との連携が益々必要となると考えられる。

2018年にはギャンブル等依存症対策基本法が施行され、また世界保健機関（WHO）が疾患分類であるICD-11に「Gaming disorder」（ゲーム症・障害）を加えることとなり、アディクション問題に対する社会的関心が高まっている。なお、「Dependence」は日本語では「依存」と訳され多様な場面で用いられているが、WHOのDependenceの定義では物質依存に限られており、ギャンブル症やゲーム症などの行動嗜癖に対しては用いられていない。「アディクション」は物質依存と行動嗜癖の両者を含む用語であるため、行動嗜癖問題にも取り組むJMSAASは、2016年の学会統合時に学会名に「アディクション」を用いた。JMSAASは学会名の通り、近年急速に問題化しているゲーム症などのアディクションにも学術的な対応をしている。

アディクション対策として、ハームリダクションが注目されている。本質的な治療が難しい場合、

まずは害を減らそうとする対策で、薬物乱用者における注射器の使い回しによるエイズの蔓延を防ぐために新しい注射器を乱用者へ配る対策が典型例である。日本でこのような対策は妥当とは言えないが、対象によっては、断酒というより節酒を目指す対応策は、ハームリダクションの一種かもしれない。JMSAASではハームリダクションに関する特別委員会を設置して、わが国なりのハームリダクションのあるべき姿を検討している。

民法改正により2022年より成人年齢が18歳

に引き下げられるが、飲酒・タバコは20歳のままであるため、飲酒や依存症予防についての教育・研究の必要性が増えると予想される。また、医学教育においても行動医学がコア・カリキュラムで強調されるようになり、JMSAASは益々重要な使命を担うと考えられる。

以上のように、JMSAASは社会の変化に合わせてアディクションへの学術的な対応とその成果の社会還元を心掛けており、まさに社会と共に歩む学会である。



JMSAAS 理事・監事・年会長・顧問・事務局（2019年10月札幌市における理事会）